

はぐくむ光のびる若芽

(181)

橋場 椎名 竹彦

私の家族は、父、母、妻、高1の長女、小5の長男と私の6人家族です。子供の教育に対する持論というものはありません。むしろ親としてどうあるべきかを考えさせられる今日このごろです。

高1になったばかりの長女は、入学前から高校のテニス部の練習に精を出し、まだ4月だというのにすっかり日焼けして帰って来ると毎日グッタリ疲れきった様子です。でもいったん友達の話になるとにわかに活気が、おかげで私も部活のメンバーの名前をつつすらと覚えてしまいました。アメリカの詩人エマーソンは「友を得るの唯一の方法は、自ら人の友となるにある」と言っています。この言葉の様に高校に入っても友達との交流が盛んで、皆に大変お世話になっていと思う。親として心から感謝せず

にはいられません。

長男は、時折思いもよらない様な事を考える時があります。先日も部屋を覗くと、手話ニュースの番組を見ていて「この番組は耳の不自由な人がどれだけ楽しみに待っているのか、だつて1日に2回だけしか放送されない、それもほんのち

『人を思う心』を 忘れずに



世話になって初め
た事があ
ります。
それは、
たかが1
mの段差
が、実は
車イスで

よつこの時間だけなんだよ」と。何でこの様な事を知っているのか、親として言葉が出来ませんでした。後日NHK千葉放送局に問い合わせると、月曜日から金曜日までやはり1日2回、それも5分ずつの放送で、他に週1回の子供ウィークリーが10分、週間手話ニュースが15分と、これだけの

放送です。これでは耳が不自由な人にとっては、やりきれない思いがするのではないのでしょうか。

早速NHK千葉支社へお願いしたところ、本社へ要望事項として伝えてくれるとの事。子供の思いが伝われば良いのですが、時に、私も数年前に1ヶ月程入院生活を送りました。その時車イスにお

健康だより

シリーズ⑭
今月の顔



竹内キヨさん (88歳)
(篠原)

長寿の秘訣

今回ご紹介する竹内キヨさんは、ペンネーム「紀葉」をもつ歌人で、米寿を迎えた今日も毎日二首ずつ歌を作り、日々の暮らしに対する想いをその歌に込めています。短歌を通してみるその素晴らしいお人柄をご紹介します。

を飲む」ことを欠かしませ

ん。これは、幼い頃物知りだった祖母から教わったのですが、消化を助けるため水分を補給するという事が、生活習慣として身に付けられています。また、子供達が買ってきてくれたヨーグルト、カルシウムウエハーなどを、お茶の時などに食べているそうです。

◎夕方のお散歩

9年前に大腿骨骨折で入院してからは、外へ出るときには補助として両手で押す車を使い、毎日、夕方の散歩をしています。歩きながら出会う美しい夕日や、季節の花々は短歌の題材となり、竹内さんの心象スケッチとして歌に生かされています。

◎人とのおつきあい

短歌が日課である竹内さんは、毎月2回の歌会に参加

加し、気心のしれた仲間と短歌の推敲を行っています。また、入院していた病院の会報にも参加し、執筆を頼まれたり、自作の短歌集「早蕨」を発売したりしています。いまでも歌をとおりしたおつきあいが数多くあるそうです。

◎心の持ち方

大農家を支えながら8人の子供を育てあげましたが、歌作りを中止した時期もありました。お子様に恵まれ現在は、7人家族のなかで好きな短歌を作る竹内さん。「あなたも私も同じ人間、子供でも障害者でもみな同じ、自分と同じ目の高さで人を見なくてはいけない。」とお話には、とても感動しました。一日を大切に生きていく竹内さん、これからも素晴らしい作品を期待しています。

(保健婦 土屋)

新作二首の紹介

「ボケ防止に
日記手紙が有効と
医師の勧むる
老いの暮らしに」
「雪柳の
真白に咲ける一群に
隣る山吹
黄花華やぐ」

募集

このコーナーで、ご紹介する方を募集しています。ぜひ、ご連絡を。保健センター ☎(84)1158